

邁る

Vol. 197

地域を創る

大日向雅美

老若男女共同参画で地域の育児力向上をめざすNPO活動に携わって20年近くになります。

原点は1970年代初頭に社会問題となった母親たちの育児困難現象でした。女性は子どもを産めばだれもが立派に子育てができるという母性本能説がまかり通っていた当時、育児不安や育児ストレスに悩み苦しむ母親たちは、母性を喪失した異常な女性だとする見解一色でした。何が母親たちを追い詰めているのかを問い直すことなく、母性神話をかざして女性たちに石の礫を投げる当時の風潮に私は怖さを禁じえませんでした。全国を回って聞き取った母親たちの声から浮かびあがったのは過酷な子育ての日々。子どもの可愛さも子育ての大切さも十分に分かっていても、夜泣きに疲弊し、トイレに一

人である時間もままならず、「365日、24時間年中無休のコンビニを一人で切り盛りしているみたい」と訴える声に接したことが、地域の皆で子育てを分かち合う子育てひろばの開設につながり、その中で「理由を問わない一時保育」を行うこととなりました。

「理由を問わない一時保育」は育児放棄を助長させるとの批判もありましたが、私の背後には救いを求めるたくさん母親たちの声がありました。女性として、一人の人間として、ゆとりある時間をもってこそ子育ての喜びにつながるという信念は揺るぎませんでした。

ただ、どうしても足りないものがありました。人手です。7時半から21時まで、年中無休の一時保育を支えてくれる人。子どもの発達と心理、保育、



写真提供：アトスタジオスキ

子育て支援等について、きちんとした知識をもって母親に心から寄り添ってくれる人が必要でした。そうして取り組んだ「子育て・家族支援者養成講座」に地域の人々が駆けつけてくれました。2005年から現在まで、6つの自治体で既に2000余名の支援者が誕生。その実績が認められて2015年から厚生労働省の認定資格(子育て支援員)になりました。

「子育て・家族支援者」の主な参加者は、自分が経験したつらさを若い世代に味わわせてはならないとの思いを原動力にした、子育てが一段落した中年女性たち。そこに、2013年からはシニア世代の男性たちも加わりました。戦後の高度経済成長を支え、低成長期の国際競争を生き抜いてきたこの世代の男性たちの職業人・企業人としての

おおひなた・まさみ

恵泉女学園大学学長
NPO法人あい・ぼーとステーション代表理事

専門は発達心理学、学術博士(お茶の水女子大学)。1970年代初めのコインロッカー・ベビー事件を契機に、40余年、母親の育児ストレスや育児不安を研究し、地域の子育て・家族支援のNPO活動にも取り組んでいる。NHK放送文化賞、エイボン教育賞、男女共同参画社会づくり功労者内閣総理大臣表彰、などを受賞。主な著書に『子育てと出会うとき』(NHK出版)、『「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない』(岩波書店)、『増補 母性愛神話の罫』(日本評論社)、『母性の研究』(同)、『女性の一生』(同)、『おひさまのようなママでいて』(幻冬社)他多数。『すくすく子育て』(NHK Eテレ)に「専門家」チームの一人としてレギュラー出演中。

経験・知識・技術を地域や子どもたちのために活かしてほしいと呼びかけて誕生した「子育て・まちづくり支援プロデューサー」、愛称「まちづくり支援プロ」いざれも、一時保育をはじめとして、子育てひろばで絵本の読み聞かせや親子と共に楽しむプログラムを担い、子育て相談にも活躍しています。老若男女共同参画で地域の育児力向上を、との願いが実っています。

地域が崩壊したと言われて久しくありませんが、地域はけつして枯渇していません。地下に豊かな人財が眠っていて、仕掛け一つでマグマのように動き始めてくれます。地域は創るもの、20年近いNPO活動で得た確かな手ごたえです。

KAJIMA

2021 05

